レッスン：35“Ｍ”

テーマ：上の如く下もしかり

MAC35.WPD.MEN

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット、光、火の子供たち。私たちは常に主、絶対、聖なる神に抱かれています。

上の如く下もあり。最大の中に最小があり、最小のなかに最大があります。マクロコスモス（大宇宙）の如く、メゾコスモス（中宇宙）およびミクロコスモス（小宇宙）もしかり。

今回のレッスンでは分析して、上記のことを生命の木に関係させてみましょう。

以前のレッスンでは生命の木について、あるポイントまで述べてきました。絶対存在は一番上にある上向きの大きな三角形によって示されており、その神のアウタルキーのなかに絶対存在のその部分があります。この三角形は現在・過去・未来において常に完全です。それは絶対存在、「父」を示しています。

さて、絶対存在の三角形が上に述べたようなものであるとみなすなら、下にあるのは何でしょうか？生命の木の下のほうに下向きのもう一つの三角形があり、それは生命の木における最下部の三角形です。もしそのとおりであるなら、二つの似たような三角形、一つは勿論上向きの三角形、そしてもう一つ下向きの三角形があるはずです。

下の三角形は何を示しているのでしょうか？それはLifeそれ自体としてのLifeの現れではなく、Lifeの現象としてのLifeの現れを示しており、実存の諸世界におけるLifeの現象です。それは三つのヘブン…物質界、サイキカル界、ノエティカル界です。これらは現在のパーソナリティーの諸世界です。

現在のパーソナリティーとしての私たちは「父」、絶対存在と同じような三角形を持っているのでしょうか？Lifeの現象の現れとしての私たちは、私たちの本質としての特質を現しているのでしょうか？いいえ、そうあるべきなのですが、実際には私たちは本質としての特質を現していません。この三角形は現在のパーソナリティーに属し、それは気づきのレベル、思考・行動の仕方を示す三角形です。現在のパーソナリティーはより良いセルフ（自己）およびより高い気づきのレベルを表現するために、この三角形においてワーク､努力する必要があります。

従って、「上の如く下もしかり」という文言はこの生命の木に関して与えられたものですが、しかしそれを現実のものとするためには、現在のパーソナリティーとしての私たちはこのアイコン（＊本物のように見えるが実際は本物でないもの）を壊し、同じものを表現するために一生懸命にワークする必要があります。なぜなら、現在のパーソナリティーとしての私たちは同じものを現していないからです；私たちはアイコンであり、このアイコンを打ち壊さねばなりません。私たちは自分自身を無知から解放する必要があります。

以前のレッスンでは次のように述べました…私たちが現在のパーソナリティーのこの三角形、あるいは対応する三面ピラミッドでワークをする前に、まず自分自身を地面の表面に持ってきて、ワーク、四面ピラミッドおよび五面ピラミッドのなかでの真剣なワークをする必要がある、と。それは意識的に生きることをスタートするために、いわゆる意識的セルフ・エピグノシスを表現するためです。すると、現在のパーソナリティーは徐々にゆっくりと超意識的セルフ・エピグノシスを表現するようになり、そうすることによって同時に、いわゆる一面ピラミッド、以前のレッスンで述べた円錐形を使うようになるのです。そうなのです、これが真のワークの始まりであり、それ以前はそうとは言えません。その時、私たちは半神としてこの三角形のワークをスタートするのです。

Page2

さて、現在のパーソナリティーの三角形の両サイドは何を示しているのでしょうか？右側はロゴス的部分を示し、ノエティカル体を通じて表現されます。一方、左側は聖霊的部分を示し、サイキカル体を通じて表現される意識の現われです。

三つ目のサイド、三角形の底辺はそれら二つをマスターしているレベル、およびそれらのバランスを示しています。私たちは同時に両方のサイドについてワークし、神に属する中央の道を上に昇り、思考と感情のバランスの取れた現れを保つ必要があります。

現在のパーソナリティーはいかにしてこれを達成するのでしょうか？それは、最初の磔への到達に向けて気づきの上昇および現在のパーソナリティーをマスターすること、それが達成されるための助けとガイダンスを通じて行われます。

最初の磔への到達を現在のパーソナリティーはどのようにして達成するのでしょうか？現在のパーソナリティーが現在のパーソナリティーの諸体を完全にマスターして、（インナーセルフではなく）いわゆる現在のパーソナリティーの自己実現と呼ばれるステート（＊状態）に到達します。その時、現在のパーソナリティーは完全にバランスの取れた状態にあり、調和のステートにあります：ノエティカル体の現れとサイキカル体の現れがバランスの取れた状態です。そのパーソナリティーは大いに自分の本質を表現しています。

今、私たちは「上の如く下もしかり」と言えると思いますか？現在のパーソナリティーの三角形が「父」に属する「上」の三角形と同一となるポイントに到達していますか？たとえその三角形が「父」の三角形と同一であるポイントに到達し、質的にLifeの本質を大いに現しているとしても、勿論、量的にはそれは同じではありません。絶対存在は多様性のステートにあり、一方、自己実現した現在のパーソナリティーは多様性を表現する能力を有するモナドです。

過去に述べたように、三つの同じ三角形があるのですが、二つ目の三角形は汎宇宙的キリストロゴスとしてのキリストロゴスに属しています。この三角形はあらゆる点において「父」の三角形と同じです。前のレッスンで述べたように、この三角形は生命の木の頂上にある絶対存在の三角形と底辺を共有しています。この三角形はキリストロゴスとしての絶対存在のロゴス的本質の結果です。キリストロゴスとしての絶対存在のロゴス的本質は創造界において絶対存在の大きな三角形の中で一番上にある小さな三角形（それは絶対英知という特質を最優先的に有する）によって表現されています…“en archi is Logos”「山と谷以前に私は存在する」。絶対存在のアウタルキーにおける最優先的特質は絶対英知です。しかし、創造と表現の諸世界における最優先的特質は絶対善であり、その特質は「父から生まれた息子」を通じて表現されます。「私と父は一つである」。

**質問**：「山と谷以前に私は存在する」という文言は上の三角形から来るのでしょうか、あるいは…スパーク以前から来るのですか？

**Ｋ**：それは「父」、絶対存在の三角形から来ます。絶対存在は絶えず活動している状態にあり、この活動とは神の黙想以外の何ものでもありません。覚えているかもしれませんが、絶対存在は活動しているもの、振動しているもの、発振しているものが何もない活動、波動、振動という特質を有し、それはアウタルキーのステートです。そうです、「父」に属する三角形の中には、キリストロゴスとしての父のロゴス的本質としての「息子」が同時にいます。そしてキリストロゴスから汎宇宙的キリストロゴスがあり、それは聖霊と共にユニバース、コスモスを築きます。そして汎宇宙的キリストロゴスから、創造の諸世界、特に実存の諸世界のなかで、「父から生まれた息子」としてのイエス・キリストロゴスがいます。それゆえ、その身体でさえも私たちの身体とは全く違っていました。一見同じに見えたのですが、全体の輝きに耐えることができたのです。四つのエレメントを通じて築かれた私たちが知っているような身体は全て、その輝き、光、内なる火によって燃えずに耐えることはできません。ですから、その身体でさえも、現象的には同じに見えても、実際には違っていたのです。

なぜキリストロゴスはそのように現わされたのでしょうか？彼は人間を示したのです。彼は創造界…それはこの地球という惑星のみならず全体としての創造界、諸宇宙…に来る全ての人間を照らす光なのです。彼がイエス・キリストロゴスとしての自分自身について語るとき、彼は創造界におけるあらゆる人間について語っていたのです。なぜなら、全ての人間はその内側に彼のスパークを有しているからです。

Page3

**質問**：現在のパーソナリティーの三角形の底辺の上にある四角形においては、つまり現在のパーソナリティーの三角形の上においては、いかなる現在のパーソナリティーもその経験的知識を得ることはできないと述べました。もし同化がなければ、いかにしてそれらの世界について多くを書くことができるのでしょうか？

**Ｋ**：他の人々が主張していること、体験していることに関してコメントするのは私たちの仕事ではありません。前に述べたように、たとえ多くのパワーと能力を現していても、人間が体験していたことはイリュージョンであり、それ以上のものではありません。残念なことに、今でもそうしている人間はたくさんいます。なぜでしょうか？なぜなら、彼らは自分たちの潜在意識のなかに飛び込んでいるからであり、それ以外のものではありません。上に上昇する代わりに、彼らは地面のなかへとより深く下降しているのです。なぜなら、人間が無知のなかにある間は、彼は地にフォーカスしており、自分自身のパーソナリティーに魅せられているからです。残念なことに、現在でさえ多くのメソッドがあります。それらのメソッドはこの三角形、このピラミッド、そして創造界全体さえも逆さまにします。彼らは多くの道によって多くのエクササイズを行い、諸体のマスターの結果としてではなく、テクニカルな手段、テクニカルな実践を通じてパワーと能力を現しています。彼らは地面から上に向かうワークの代わりに、下に向かうことによってコネクトしているのです。前に説明したように、創造エーテルのセンターは完全に聖霊の監督下におかれるべきです。残念なことに、パワーと能力を表現するためにそのポジションからエネルギーを上げようと試みる多くのメソッドが今でもあります。それを達成することは不可能です。もしあなた方がいわゆるクンダリーニと呼ばれるセンター、あるいは生殖器のセンターにフォーカスすると、パワーは下降しますが、本人は上昇しているというイリュージョンを抱きます。なぜでしょうか？というのも、ピラミッドの底辺に立っている現在のパーソナリティーは反対方向に面しており、ピラミッドの地表より下の地点に立っているからです。彼らは上昇しているというイリュージョンを抱いています。確かに、パワーと能力は現れています。何のために？無知に奉仕するため、対極するものに奉仕するためです。

**質問**：あなたは間違った方向に進んでいない、あなたの体験はあなたの気づきの真のレベルを表現している、といかにしてあなたは確信できるのですか？

**Ｋ**：私たちはそれをいかにして知っているのでしょうか？

私たちはこの地球において知られている全ての道を通過してきました。

私たちが経験していない道はありません。

その結果として、私たちは知識のレベル、多くの経験（悪い体験、良い体験）の結果であるレ

ベルに到達したのです。

なぜなら、それらは全て気づきのレベルによる解釈だからです。

それら全ての経験を得た上で私たちは比較します。なぜなら、私たちには二元性の結果として比較するという能力があるからです；観察し、比較し、それらすべての経験を経た上で、今や他の何かが私たちに与えられたのです。別のスパーク、より以上の助けと言ってもいいかもしれません。それが私たちに道を示してくれたのです。しかし、ここで「しかし」と言わねばなりませんが、私たちはそれと共にワークをする必要があります。それは単にプレゼントとして私たちに与えられたのではありません。

その与えられたものを通じて、真にワークをしたいと願う個人の前に新たな地平線が開けたのです。探求者である私たちは盲目的に受け取ることはしません。経験することなしに受け取ることはせず、それゆえに私たちは探求者なのです；私たちはリサーチをし、前に進み、自分たちの探求、リサーチの結果を全て以前の経験と比較します。このようにして私たちは相対真理の様々なレベルに到達し、最終的には絶対真理に導かれるのです。

私たちは自分が絶対真理の一部分となるまでは、絶対真理について知ることは決してありません。

私たちはドグマ的（＊教条的）になるべきではありません。私たちが前に進めば進むほど、さらに相対真理の別のレベルを体験し、それによっていかに自分がほんの僅かしか知らないかをより深く実感するのです。

Page4

私たちはこのようにして理解するのです。そして常に、経験することを全て主が与えてくれたものと比較します。私たちは書かれていること全てを当然のこととして受け入れることはしません。なぜなら、私たちの探求は書かれているものによるのではなく、それらを勉強して従うのではありません。私たちは経験を通じて探求し、それ以外ではありません。私たちは感情の現れを除去する必要があります。感情、そうです、多くの人々が自分たちは光の奉仕者である、と主張しています；確かに、彼らは「多くの良いこと」をするかもしれないし、他の人間たちも彼らの仕事を良いものと見なすかもしれません。しかし、そのことが、そのパーソナリティーが進化の上のレベルに到達したという証拠にはなりません。なぜなら、その特定のパーソナリティーはいまだ動機を表現しているかもしれないからです。そのパーソナリティーが提供しているものが実際に人々を欺いていない、と確信することができるでしょうか？

動機があるとき、彼らが同じ状態にずっと留まるという確信はもてません。それゆえに、何であれ私たちが行うことは、パワーと能力の表現にフォーカスすべきではなく、気づきの上昇、より良いセルフ（＊自己）の表現、さらにもっと良いセルフを現すことにフォーカスすべきです。私たちはそうすべきであり、そうすれば間違うことはありません。私たちは子供がパワーと能力を手にすること、子供に鋭利なナイフを与えることを望みません。そうではなく、他人を助けようとする外科医に良く切れるナイフを与えます。そうすれば、私たちは間違った方向に進むことはありません。確かに選択は個人次第です。誰に対しても、私たちに同意するよう強制することはできません。しかし、それが私たちがここで行おうとしていることであり、Lifeの特質の現れの結果としてパワーと能力が発揮されるとき、それらのパワーと能力は同胞である人間に奉仕するためのものであることを確信するのです。動機によるモチベーションは一切なく、Life、Lifeそれ自体の真の現れのみがあります。

私たちのエクササイズは全て、パワーと能力を現すためのものではありません。私たちには魔術は許されません。なぜなら魔術のテクニックは無知・闇に奉仕するか、あるいは光に奉仕するかのどちらかだからです。動機が異なります；私たちには魔術は許されておらず、許されている唯一の魔術はLifeの魔術です。そうです、探求者である私たちはバランスをもたらすために、その種の現れには反対します。なぜなら、不幸なことに人間は無知のなかにいる間は多くのパワーで多くの悪魔、デモンを築くからです。私たちは啓発に向けて進みますが、全てを知っていると主張することはありません。実存の諸世界においては誰も全てを知っている人はいません。残念ながら、人々から神とみなされて注目の的になることを受け入れる人もいます。私たちにとっては、それは冒瀆的行為です。確かに彼らは無知によるものと言い訳することはできますが、しかし他の人々を騙すべきではありません。

これらの事実について述べるのは、人々を騙しているそれらの役者たちが同胞の人間たちのために、そして彼ら自身のために考え直して欲しいからです。

幸いにも、過去に人々が表現することのできたパワーと能力は現在限られていますが、それは神の慈悲によって、最愛なるお方の到来によって生じていることです。創造エーテルは、それが多くの文明を破壊する原因となった過去において発揮されたようには、もはや現すことができなくなっています。今や創造エーテルは、他のエーテルをマスターすることによって初めて現すことが可能なのです。

私たちは常に主、絶対、神の聖性によって抱かれています。

EREVNA/MAC/.SEN/PYRM11.KE4.